

熊本県民なら東京で一度は訪れたい場所がある。石積みレンガ造りの建物が目を引く日本銀行本店のそば、日本橋川に架かる常磐橋だ。「肥後の石工」の手で140年前に築造され、供用中の橋では都内最古とか▼その少し下流にある日本橋も石橋だ。ここにきて上空を走っている高速道路を地下に移設する検討が始まった。先の東京五輪以降、殺風景だった日本橋や常磐橋の一带は再び空を取り戻しそうである▼もっとも常磐橋は東日本大震災の際に一部が変形。補修工事が終わって再び歩けるようになるにはもうしばらくかかりそうだ。復旧の足取りは一步步ずつである▼県内の石橋も熊本地震でダメージを受けたが、着実に元の姿に戻りつつある。架け直された美里町の二俣福良渡はきのうから供用を再開。日光が水面に反射する様子がハート形に見える「恋人の聖地」も復活した。復旧工事が進む山都町の通潤橋でも通水試験で一時復活した水のアーチが先日の紙面に掲載された▼そんな石橋に光を当てる「全国石橋サミット」がきのうまで山都町で開かれ、会場に足を運んだ。住民が「この地域の大切な宝と共に歩み、山都町の復興から新しい熊本の未来へつなげる架け橋になる」と宣言。暮らしと結び付いてきた石橋を後世に残したい、との熱い思いが伝わってきた▼二俣福良渡まで足を延ばすと、色づくイチョウが供用再開に花を添えていた。この時節、石橋が多く残る緑川流域は「肥後の石工」の仕事っぷりを確認するのにうってつけである。